大祭司としての主イエスの祈り（２）

ヨハネ福音書17章9-19節
【新改訳 2017】

17:9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さった人たちのためにお願いします。彼らはあなたのものですから。
17:10 わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。
17:11 わたしはもう世にいなくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。
17:12 彼らとともにいたとき、わたしはあなたが下さったあなたの御名によって、彼らを守りました。わたしが彼らを保ったので、彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためでした。
17:13 わたしは今、あなたのもとに参ります。世にあってこれらのことを話しているのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためです。
17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。
17:15 わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。
17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。
17:17 真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。
17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。
17:19 わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。

【祈りながら考えよう】

（１）10節で、主が「彼らによって栄光を受けました」とはどういうことですか。
（２）弟子たちのための第1の祈りは何ですか（11-16節）。
（３）19節で「彼らのため、わたし自身を聖別します」とはどういう意味ですか。

【解　説】

（１）この世とは区別された者たち

「わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さった人たちのためにお願いします。彼らはあなたのものですから。」（9節）

主イエスは弟子たちを世に残していかれる。

ここに、主が十一弟子のために祈る理由を述べておられる。

主は世のためにではなく、弟子たちのために祈られるのは、彼らが、「父なる神から主ご自身に下さった人たち」だからである。

主の弟子というのは、「この世とは区別された者たち」である。この世は、神に反逆し、神なしで自立している社会である。だから、ヤコブが、

「世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友となりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。」（ヤコブ4:4）と言っている。

（２）彼らによって栄光を受けた

十一弟子について、「わたしは彼らによって栄光を受けました」（10節b）と言っておられる。

弟子たちは、限定された意味においてではあるが、すでにイエスご自身を映し出していた。彼らは主イエスの人格の感化を受け、主が愛される事を愛し、主が憎まれる事を憎むことを学んでいた。彼らがりっぱに育ってきていることを評価し、主はご自身の誇りであり栄光であると弟子たちを思っておられる。

（３）第１の祈り：彼らをお守りください

主は十一弟子のために二つのことを祈っておられる。一つは、

①「わたしはもう世にいなくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。」（11節）

弟子たちは、主と共にこの世を去るのではない。主が十字架上で死なれた後、主は弟子たちに使命を与えて、この世に残して行かれる。それで、「あなたの御名によって、彼らをお守りください」と祈っておられる。

②「わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。」（11節）

主が彼らを守り、保たれるのは何のためなのか。11節によれば、「わたしたちと同じように、一つになるため」である。主は一致の最高の規範であり型である。ここで「一つになるため」と記されている言葉は、むしろ「一つであるため」と訳した方がよい（尾山令仁・ヨハネ福音書講解）。

一つであるという事実は、すでに与えられている。それを保ち続けるように守ってください」と祈られた。

③「わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためです」（13節）

主は、主の弟子たちが主から与えられた使命を全うし、そのことによって彼らが一つであることを示し続けること、それが、主の喜びにほかならない。

④「世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。」（15節）

ここでの「悪い者」とは、悪魔である。主は、弟子たちが悪しき世から保たれ、信仰からはずれないように、偽りの教えに惑わされないように、誘惑に負けないように、迫害によってつぶされないように、悪のあらゆる策略や攻撃から守られるように祈られた。彼らは四方から危険に囲まれていた。弱いということが弟子たちの姿であり、主は彼らが堅持されることを願ったのである。

（４）第２の祈り：真理によって彼らを聖別してください

第二の祈りは、「真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。」（17節）

「聖別」（ギハギアゾー）は「分離や聖くすること」を意味する。主は父に、弟子たちがもっと聖くなるように、聖さと純潔においてより高い段階へと導いてください、と願っておられる。

神のみことばは、聖霊によって内的な聖化のわざを促進させるすばらしい手段である。みことばが、人の心、精神、良心、そして感情に蒔かれ、強力に印象づけられることによって、聖霊はその人の品性をもっと聖いものへと成長させてくださる。みことばを読み、それに従う時に、主人に役立つ、聖別された器と変えられる。

（５）弟子たちを世に遣わした

「あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。」（18節）

弟子たちは、この福音書では一度も「使徒」とは呼ばれていない。しかし、この祈りの言葉は、彼らが「使徒」としての「使命を帯びて遣わされた者」であることを示す。

御父は、罪を犯した人類をご自分のもとに連れ戻すために、御子イエスをこの世に遣わされた。今やイエスは、ご自分に代わって使命を達成するために、弟子たちを世に遣わされる。

彼らを「使徒」として、イエスの十字架の死によって成し遂げられた和解の福音を宣べ伝え、彼らのことばと行いによって神の愛を映し出すために、イエス・キリストにあって世に遣わされている。

（６）彼らのため、ご自身を聖別する

主は、「わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。」（19節）と言っておられる。どういうことか。主は完全にきよく、罪がないお方だったので、きよめられる必要はなかった。その主が、「わたしは彼らのために、わたし自身を聖別します」と言われた。

この意味は、「わたしは自分自身を聖別して、祭司として、自分を犠牲としてささげます。」という意味である。それは、弟子たちが真理によって聖別され、きよい民となるためにである。それは、間もなく十字架で贖いの死を遂げられることを意味していた。主はまさにご自身を神のものとして聖別されたのである。

このことはエペソ5章26節「キリストがそうされた（教会を愛し、ご自身をささげられた）のは…教会をきよめて聖なるものとするためであり…」と符合する。

この主の贖いの死によって、弟子たちを聖別し、世に遣わし、その使命を全うさせるのである。この主の聖別である十字架上の死こそ、私たちがこの世にあって主の働きができる原動力にほかならない。